

3 研究1 児童生徒のソーシャル・スキル尺度の作成

ソーシャル・スキル・トレーニングを児童生徒の実態に応じて効果的に実施するためには、児童生徒のスキルの獲得状況の把握をすることが重要である。そこで、スキルの獲得状況を把握するソーシャル・スキル尺度の作成をした。

まず、「ソーシャル・スキル」を次のように定義し、

ソーシャル・スキル…… 良好な人間関係をつくるためのスキル

尺度は、スキルを把握するための観点として「配慮」「主張」の2つを用いた。

配 慮 …………… 相手の状況を理解し、気配りするスキル
主 張 …………… 自らのことを正しく伝えるためのスキル

尺度は、「配慮」「主張」の2つの尺度をもとに次のように構成した。

- ・質問項目は、「配慮」「主張」それぞれ8項目、計16項目。
- ・児童生徒が、自己評価する。
- ・質問項目の評価は、
 - 5（あてはまる）
 - 4（ややあてはまる）
 - 3（どちらともいえない）
 - 2（あまりあてはまらない）
 - 1（あてはまらない）の5段階で行う。
- ・尺度の得点は、「配慮」「主張」とも8点から40点までの範囲。
- ・ソーシャル・スキルの理解は、2尺度（2観点）の得点をもとに、2次元で行う。

この尺度を活用し、質問項目に対して、児童生徒の回答を得ることで児童生徒のスキルの獲得状況を把握することができる。

スキルは広範囲にわたり、その獲得状況の全体を把握することは難しいことである。また、教師がクラスの児童生徒のスキルを把握しようと考えたとき、数多くのスキルの一つ一つについて獲得状況を確認することは大変なことである。そこで、この尺度では、「配慮」「主張」の2つの観点をもとに、それぞれの量や2つのバランスにより、スキルを全体的に捉えようと考えた。

【ソーシャル・スキル尺度の実施方法】

- (1) 実施のねらい 児童生徒のソーシャル・スキルの獲得状況を把握する。
- (2) 実施の方法 16の質問項目に対して、「あてはまる」から「あてはまらない」の5段階の回答を得ることで、児童生徒の「配慮」「主張」のスキルの獲得状況を判断する。
- (3) 実施の時期 プログラム実施前と実施後
・ プログラム実施日の朝の会や帰りの会に実施してもよい。
・ その後のスキル定着度を把握する場合は1か月後程度に実施する。
- (4) 実施の対象 プログラムを実施する児童生徒全員
- (5) 実施の手順
① 尺度の用紙を配布する。
② 用紙のリード文をもとに、尺度のねらいや記入方法について説明する。

ソーシャル・スキル尺度のリード文

このアンケートは、人とかかわり方に関する意識や行動について調べようとするものです。正しい答え・まちがった答えというものはありません。成績にも関係ありませんので正直に答えてください。また、深く考えすぎず、今のありのままの考えを答えてください。

- ① 質問項目を読み、あてはまる数字に○をつけてください。
- ② 右側の白抜きの欄に数字を書いてください。
- ③ 下の欄に合計点を書いてください。

- ③ 時間を確保し、記入させる。
・ 必要に応じて、質問項目の用語の意味等について解説する。
・ 記入が遅れている児童生徒に対し、個別に支援を行う。
・ 質問項目記入後に、「配慮」「主張」それぞれの合計点を記入させる。
- ④ 尺度の用紙を回収する。
- (6) 実施上の留意点
① 落ち着いた雰囲気の中で実施する。
② 尺度についての適切なデータを得るため、児童生徒の発達段階や学級の状態を十分に考慮して、記入方法の説明や質問項目の用語解説を行う。
③ 実施時期については、可能な範囲でプログラムの実施直前と直後が望ましい。

《 ソーシャル・スキル尺度 》

() 小学校

() 年 () 組 氏名 ()

このアンケートは、人とかかわり方に関する意識や行動について調べようとするものです。
正しい答え・まちがった答えというものはありません。成績にも関係ありませんので正直に答えてください。また、深く考えすぎず、今のありのままの考えを答えてください。

- ① 質問項目を読み、あてはまる数字に○をつけてください。
② 右側の白抜きの欄に数字を書いてください。
③ 下の欄に合計点を書いてください。

< 質問項目 >

あてはまる・・・
ややあてはまる・・・
どちらともいえない・・・
あまりあてはまらない・・・
あてはまらない・・・

1
はいりよ
配慮2
しゅちよう
主張

1	友だちが元気のないときは、はげまします。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
2	相手に聞こえる声で話します。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
3	何かをたのむとき、相手の迷惑にならないか考えます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
4	友だちに、自分の考えを言います。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
5	クラスの人と一緒にいるときは、相手の気持ちを考えます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
6	人の意見に左右されないで、自分の考えを言います。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
7	友だちがさみしそうなときは、声をかけます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
8	必要なときは、自分から先生に頼みます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
9	話をするときは、相手の気持ちを考えます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
10	わからないことがあるときは、先生に質問します。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
11	話し合いのときは、自分とちがう考えを聞きます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
12	グループの人たちの前で、自分の考えを言います。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
13	友だちの話は、ひやかさないで聞きます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
14	自分だけ意見がちがっても、自分の意見を言います。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
15	友だちが仲間に入りたそうにしていることに気づきます。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		
16	クラスの人たちの前で、自分の考えを言います。	1 - 2 - 3 - 4 - 5		

	1 はいりよ 配慮	2 しゅちよう 主張
合 計		

《 ソーシャル・スキル尺度 》 () 学校
() 年 () 組 氏名 ()

このアンケートは、人とのかかわり方に関する意識や行動について調べようとするものです。正しい答え・まちがった答えというものはありません。成績にも関係ありませんので正直に答えてください。また、深く考えすぎず、今のありのままの考えを答えてください。

- ① 質問項目を読み、あてはまる数字に○をつけてください。
- ② 右側の白抜きの欄に数字を書いてください。
- ③ 下の欄に合計点を書いてください。

< 質 問 項 目 >

あてはまる・・・
 ややあてはまる・・・
 どちらともいえない・・・
 あまりあてはまらない・・・
 あてはまらない・・・

1
配慮

2 主張

- | | | |
|----|-----------------------------|-----------|
| 1 | 友だちが元気のないときは、励まします。 | 1-2-3-4-5 |
| 2 | 相手に聞こえる声で話します。 | 1-2-3-4-5 |
| 3 | 何かを頼むとき、相手の迷惑にならないか考えます。 | 1-2-3-4-5 |
| 4 | 友だちに、自分の考えを言います。 | 1-2-3-4-5 |
| 5 | クラスの人と一緒にいるときは、相手の気持ちを考えます。 | 1-2-3-4-5 |
| 6 | 人の意見に左右されないで、自分の考えを言います。 | 1-2-3-4-5 |
| 7 | 友だちがさみしそうなときは、声をかけます。 | 1-2-3-4-5 |
| 8 | 必要なときは、自分から先生に頼みます。 | 1-2-3-4-5 |
| 9 | 話をするときは、相手の気持ちを考えます。 | 1-2-3-4-5 |
| 10 | わからないことがあるときは、先生に質問します。 | 1-2-3-4-5 |
| 11 | 話し合いのときは、自分と違う考えを聞きます。 | 1-2-3-4-5 |
| 12 | グループの人たちの前で、自分の考えを言います。 | 1-2-3-4-5 |
| 13 | 友だちの話は、ひやかさないで聞きます。 | 1-2-3-4-5 |
| 14 | 自分だけ意見がちがっても、自分の意見を言います。 | 1-2-3-4-5 |
| 15 | 友だちが仲間に入りたそうにしていることに気づきます。 | 1-2-3-4-5 |
| 16 | クラスの人たちの前で、自分の考えを言います。 | 1-2-3-4-5 |

	1 配慮	2 主張
合 計		

【 ソーシャル・スキル尺度の結果と活動プログラムの選び方 】

(1) 尺度の結果をもとにして児童生徒活動プログラムを選ぶ手順

- ① クラス全員のソーシャル・スキル尺度の用紙を回収し、「配慮」「主張」それぞれについて、クラスの平均点をだす。
- ② 「配慮」「主張」の平均点から、クラスのソーシャル・スキルの獲得状況を把握する。

児童生徒に身に付けさせたいソーシャル・スキルは、広範囲にわたり、その獲得状況の全体を把握することは難しいことである。また、教師がクラスの児童生徒のソーシャル・スキルを把握しようと考えたとき、数多くのスキルの一つ一つについて獲得状況を確認することは大変なことである。そこで、この尺度では、「配慮」「主張」の2つの観点をもとに、それぞれの量や2つのバランスにより、ソーシャル・スキルを全体的に捉えようと試みている。

つまり、様々なソーシャル・スキルに共通する要素は「配慮」「主張」と捉え、この2つ要素を伸ばすことやバランスをよくすることが、児童生徒のソーシャル・スキルの育成につながると考えた。

- ③ 「配慮」「主張」の平均点やそのバランス（スキルの獲得状況）をもとに、下の表から、児童生徒の活動プログラムを選ぶ。

「配慮」「主張」のバランスとプログラム

「配慮」「主張」のバランス (スキルの獲得状況)		「配慮」の平均点が「主張」 の平均点より高い場合	「主張」の平均点が「配慮」 の平均点より高い場合
予想されるクラス の雰囲気		・おだやか ・あたたかい ・おとなしい など	・明るい ・積極的 ・思いやりに欠ける など
目指すクラス		・明るいクラス ・積極的なクラス など	・落ち着いたクラス ・思いやりのあるクラス など
プログラムの選び方 のポイント		「主張」を高めるプログラム このクラスは「配慮」の方が高い ため、バランスをよくするため、 「主張」を高めるはたらきかけを する。	「配慮」を高めるプログラム このクラスは「主張」の方が高い ため、バランスをよくするため、 「配慮」を高めるはたらきかけを する。
実施するのがよい と考えられる プログラム	1 段階	あいさつ	
		・自己紹介 ・質 問	・上手な聴き方 ・あたたかい言葉かけ
	2 段階	・仲間の入り方 ・やさしい頼み方	・仲間の誘い方
	3 段階	・上手な断り方 ・自分を大切に方法	・共感（気持ちをわかって 働きかける方法）
		トラブルの解決策	

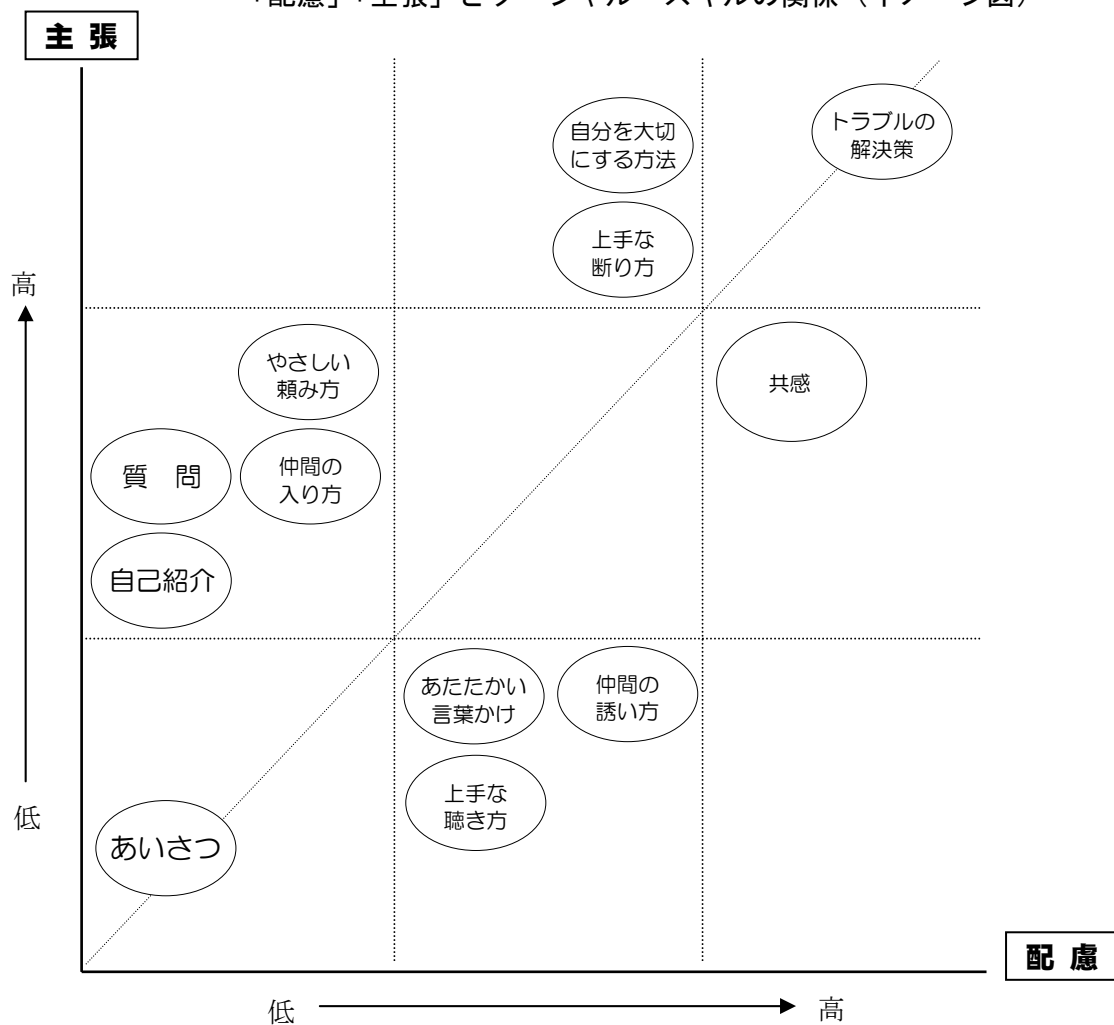
※ プログラムを選択する際には、校種による「配慮」「主張」のバランスの差を考慮する。

（参照 P 17 表5「各下位尺度の合計と平均値」）

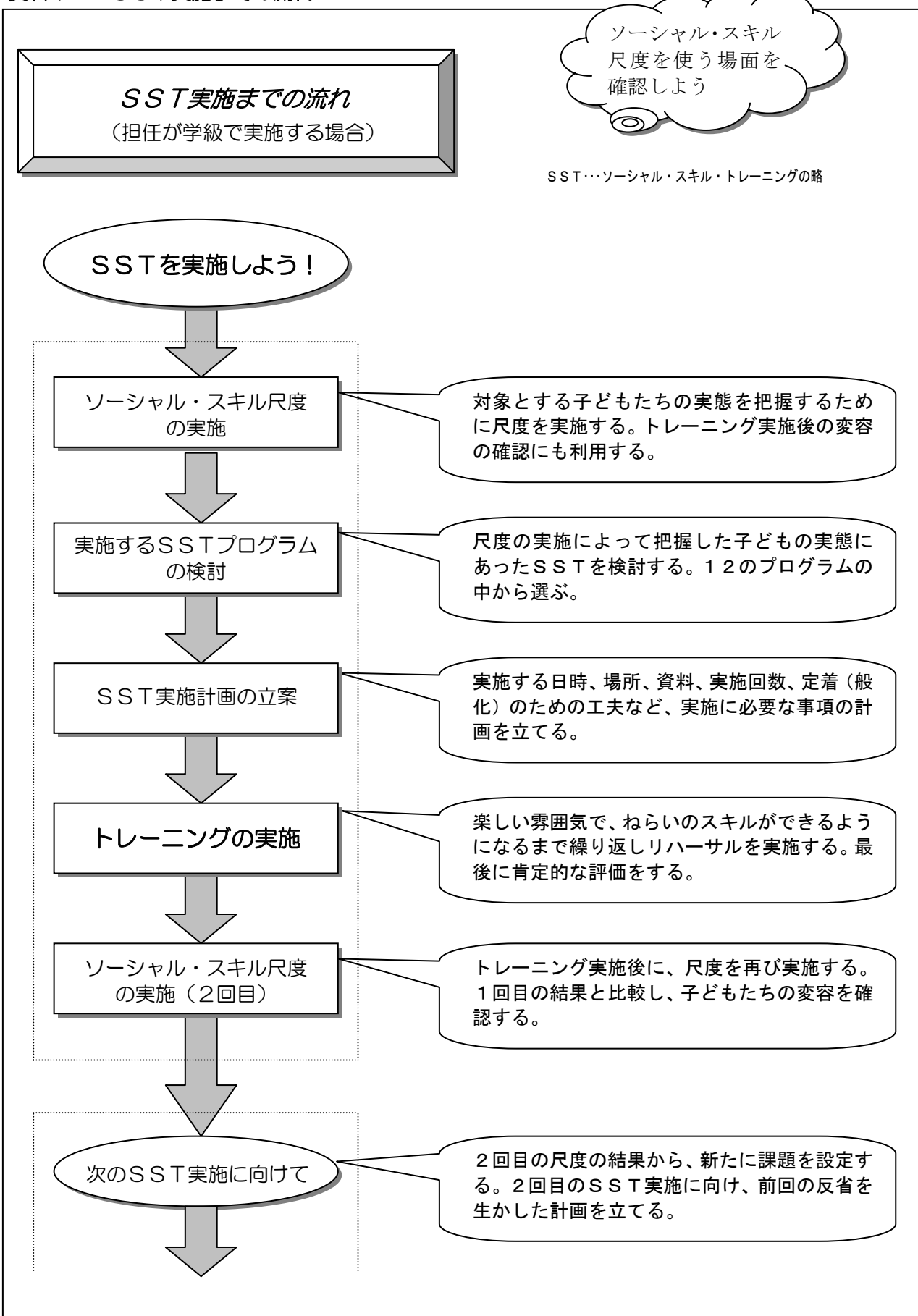
「配慮」「主張」のバランスとソーシャル・スキル

配慮と主張のバランス	初～上級	ソーシャル・スキル
配慮 = 主張	● 1段階	・あいさつ
	2段階	
	● 3段階	・トラブルの解決策
配慮 > 主張 配慮が優位のスキル	● 1段階	・上手な聴き方 ・あたたかい言葉かけ
	2段階	・仲間の誘い方
	● 3段階	・共感（気持ちをわかって働きかける方法）
主張 > 配慮 主張が優位のスキル	● 1段階	・自己紹介 ・質問
	2段階	・仲間の入り方 ・やさしい頼み方
	● 3段階	・上手な断り方・自分を大切にする方法

「配慮」「主張」とソーシャル・スキルの関係（イメージ図）



資料1 SST実施までの流れ



【「ソーシャル・スキル尺度」の作成まで】

(1) 目的

- ソーシャル・スキルを測定するための観点を明らかにする。
- 明らかにした観点をを用いて、ソーシャル・スキル尺度を作成する。

作成する「ソーシャル・スキル尺度」は、実施するSSTプログラムを選ぶための「ものさし」として、また、プログラム実施後の評価として活用します。

様々な「ソーシャル・スキル」を、ある共通の「観点」でとらえようと考えました。その観点を、調査や分析によって定め、それをもとにソーシャル・スキル尺度を検討しました。

(2) 対象とするソーシャル・スキルの概念

- 良好な人間関係をつくるためのスキル

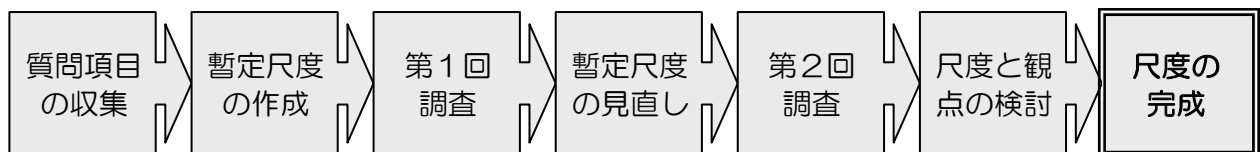
「ソーシャル」は「社会的」と訳される場合が多いですが、人間関係をつくるためのスキルとして、「対人的」ととらえた方がフィットします。

(3) 作成した尺度

- 【内 容】 ……児童生徒のソーシャル・スキル
- 【場 面】 ……アセスメント及び効果測定
- 【対 象】 ……小学4年生から高校3年生まで

作成する尺度は、プログラム実施前、子どもたちの実態を調査・把握するための「アセスメント」の場面と、プログラム実施後、変容をみるための「効果測定」の場面で利用します。

(4) 尺度の完成までの流れ



(5) 尺度の作成

① ソーシャル・スキルに関する質問紙・質問項目の収集

- ・ 本研究の研究協力委員が、関係文献等からソーシャル・スキルに関する質問紙を収集し、その中から、本研究のねらいに関連する質問項目を取捨選択する。

収集の時期 : 平成17年5月

収集質問紙 : 5質問紙

収集項目数 : 163項目

- ・ 163項目を2つのカテゴリーに分類する。

② 暫定尺度の作成

- ・ 選択した項目をもとに、ソーシャル・スキル暫定尺度を検討・作成する。
- ・ 児童生徒が、対人的な行動やその思考についての質問項目を自己評価することで、当該児童生徒のソーシャル・スキルを評価しようとするものである。
- ・ ソーシャル・スキルについての因子を「配慮」と「主張」と想定し、質問項目は、相手の状況を理解し気配りをする「配慮」と、自らのことを正しく伝えるための「主張」、それぞれ15項目ずつ、計30項目とする。

- ・質問に対する回答方法は、間隔尺度「よくあてはまる」「あてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の5段階評定とする。
- ・内容的妥当性すなわち、作成した項目が測定内容に合致しているかどうかの検討を複数回行う。

③暫定尺度による第1回調査の実施

質問項目：30項目（「配慮」15項目「主張」15項目）
 間隔尺度 5（あてはまる）4（ややあてはまる）3（どちらともいえない）2（あまりあてはまらない）1（あてはまらない）
 実施時期：平成17年10月中旬
 実施対象：中学生96名

④暫定尺度の見直し

- ・調査データをもとにヒストグラムの作成
- ・因子分解の結果をもとに調査項目の見直しを行う。
- ・質問の30項目から、不適切な3項目を削除、新たに1項目追加し、28項目とする。

⑤暫定尺度による第2回調査の実施

質問項目：28項目（「配慮」項目「主張」項目）
 間隔尺度 5（あてはまる）4（ややあてはまる）3（どちらともいえない）2（あまりあてはまらない）1（あてはまらない）
 実施時期：平成17年11月下旬
 実施対象：児童生徒 合計 311名
 ・小学生 99名（4・5・6年）
 ・中学生 105名（1・2・3年）
 ・高校生 107名（1・2・3年）

⑥尺度と観点の検討

<因子分析>

28項目の質問項目を用いて因子分析を行った。ソーシャル・スキルが、「配慮」と「主張」からなるとする仮説を確かめるために2因子を抽出した。第1因子は、「何かを頼むとき、相手の迷惑にならないか考えます」「クラスの人と一緒にいるときは、相手の気持ちを考えます」などに対して負荷量が高く、「配慮」に関する因子とした。第2因子は、「自分だけ意見が違って、自分の意見を言います」「クラスの人たちの前で、自分の考えを言います」などで負荷量が高く、「主張」に関する因子とした。以上から仮説は確かめられたと考える。

表1 ソーシャル・スキルの因子分析の結果

変数（質問項目）	因子1 配 慮	因子2 主 張
・ 何かを頼むとき、相手の迷惑にならないか考えます。	.748	-.168
・ クラスの人と一緒にいるときは、相手の気持ちを考えます。	.764	-.114
・ みんなで決めたことに従います。	.708	-.180
・ 話をするときは、相手の気持ちを考えます。	.702	-.007
・ 迷惑をかけたときは、「ごめんなさい」と言います。	.674	-.095
・ 友だちとけんかしたときは、自分に悪いところがないか考えます。	.643	-.057
・ 友だちが悩みを話してきたときは、じっくり聞きます。	.630	-.002
・ 友だちがさみしそうなときは、声をかけます。	.574	.190
・ 友だちが元気のないときは、励まします。	.564	.151
・ 友だちが仲間に入りたそうにしていることに気付きます。	.515	.150
・ 友だちが仲間に入りたそうにしているときは、誘ってあげます。	.506	.248
・ 友だちの話は、ひやかさないで聞きます。	.495	.021
・ 必要なときは、自分から友だちに頼みます	.463	.127
・ 話し合いのときは、自分と違う考えを聞きます。	.418	.131
・ クラスの人といつも仲良くしています。	.381	.202
・ 正しくないことを頼まれたときは、断ります。	.380	.239
・ 自分だけ意見が違っても、自分の意見を言います。	-.312	.795
・ クラスの人たちの前で、自分の考えを言います。	-.030	.747
・ グループの人たちの前で、自分の考えを言います。	-.023	.727
・ 人の意見に左右されないで、自分の考えを言います。	-.126	.715
・ 友だちに、自分の考えを言います。	.073	.652
・ 相手に聞こえる声で話します。	.205	.442
・ 必要なときは、自分から先生に頼みます。	.220	.355
・ わからないことがあるときは、先生に質問します。	.218	.350
・ わからないことがあるときは、友だちに質問します。	.322	.325
・ いやなことを頼まれたときは、断ります。	.168	.302
・ 断った方がよいと考えたときは、断ります。	.215	.275
固有値と因子寄与		
因子No.	No. 1	No. 2
固有値	8.892	2.377
因子寄与	7.551	6.035
		(プロマックス回転後)

表2 因子間相関

因子No.	No. 1	No. 2
因子No. 1	1.000	.562
因子No. 2	.562	1.000

表3 各因子について

因子	命名	おもな項目	内 容
第 1	配慮	「何かを頼むとき、相手の迷惑にならないか考えます」 「クラスの人と一緒にいるときは、相手の気持ちを考えます」	相手の状況を理解し 気配りするスキル
第 2	主張	「自分だけ意見が違っても、自分の意見を言います」 「クラスの人たちの前で、自分の考えを言います」	自らのことを正しく 伝えるためのスキル

表4 記述統計と各下位尺度別のアルファ係数

変数（質問項目）	度数	平均値	全体平均
第 1 因子 配慮 ($\alpha = .8298$)			
・ 友だちが元気のないときは、励まします。	311	3.98	3.80
・ 何かを頼むとき、相手の迷惑にならないか考えます。	311	3.96	
・ クラスの人と一緒にいるときは、相手の気持ちを考えます。	309	3.94	
・ 友だちがさみしそうなときは、声をかけます。	310	3.86	
・ 話をするときは、相手の気持ちを考えます。	309	3.75	
・ 話し合いのときは、自分と違う考えを聞きます。	306	3.68	
・ 友だちの話は、ひやかさないで聞きます。	311	3.62	
・ 友だちが仲間に入りたそうにしていることに気付きます。	311	3.61	
第 2 因子 主張 ($\alpha = .8186$)			
・ 相手に聞こえる声で話します。	311	4.04	3.38
・ 友だちに、自分の考えを言います。	311	3.71	
・ 人の意見に左右されないで、自分の考えを言います。	311	3.37	
・ 必要なときは、自分から先生に頼みます。	311	3.50	
・ わからないことがあるときは、先生に質問します。	311	3.35	
・ グループの人たちの前で、自分の考えを言います。	311	3.29	
・ 自分だけ意見が違っても、自分の意見を言います。	311	2.92	
・ クラスの人たちの前で、自分の考えを言います。	311	2.83	

表5 各下位尺度の合計と平均値（校種別）

	配 慮		主 張	
	合 計	平均値	合 計	平均値
高校生	29.03	3.63	26.28	3.29
中学生	29.88	3.74	26.47	3.31
小学生	33.14	4.14	28.34	3.54

⑦ソーシャル・スキル尺度（表4参照）

- a ソーシャル・スキル尺度は、「配慮」「主張」の2つの尺度によって構成される。
- b 尺度は、それぞれ8項目からなる。
- c 児童生徒が、自己評価することによってソーシャル・スキルを理解しようとする尺度である。
- d 評価は、各項目について、5（あてはまる）4（ややあてはまる）3（どちらともいえない）2（あまりあてはまらない）1（あてはまらない）の5段階で行う。
- e したがって、尺度の得点は、8点から40点までの範囲で与えられる。
ソーシャル・スキルの理解は、2尺度（2観点）の得点をもとに、2次元で行う。

資料2 ソーシャル・スキル・トレーニング実施に向けてのQ&A

